

大学等名：産業能率大学

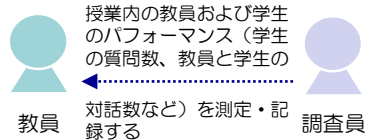
テーマ：テーマⅠ（アクティブ・ラーニング）・Ⅱ（学修成果の可視化）複合型

本事業は、教育支援センターの新設および学習支援センターの機能強化により、授業における教員と学生のパフォーマンス（学生の発言数、教員と学生の対話数、事前課題に対するフィードバック時間など）を測定した授業内スタッツデータ*、授業外学習時間などの学生の学習行動データ、および知識・技能・態度の3側面から把握した学修成果の分析に基づき、教育方法や授業外課題の質量などの改善を図り、深い学びと学修成果を伴った教育の実現に取り組むものである。

具体的には(1)教育方法の改善 (2)教育プログラムの改善 (3)学習支援の強化 (4)学修成果の多面的把握 (5)高大接続の強化 (6)事業成果の三方発信を行う。事業実施にあたっては、本学通信教育部門の学修成果の評価方法や提携先である湘南ベルマーレのデータ測定・分析ノウハウなど、産業能率大学のすべてのリソース（ALL産能）を投入して成果を最大化し、大学教育における先導的事例を創出する。

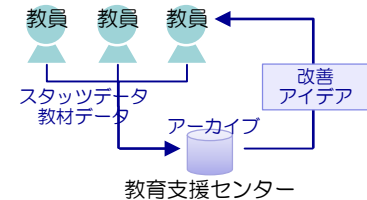
【1. 教育方法の改善】

これまで「聖域」とされてきた授業内の教員の行動をスタッツデータとして測定し、その分析結果に基づき各教員に授業設計・運営等に関するコンサルテーションを実施する。



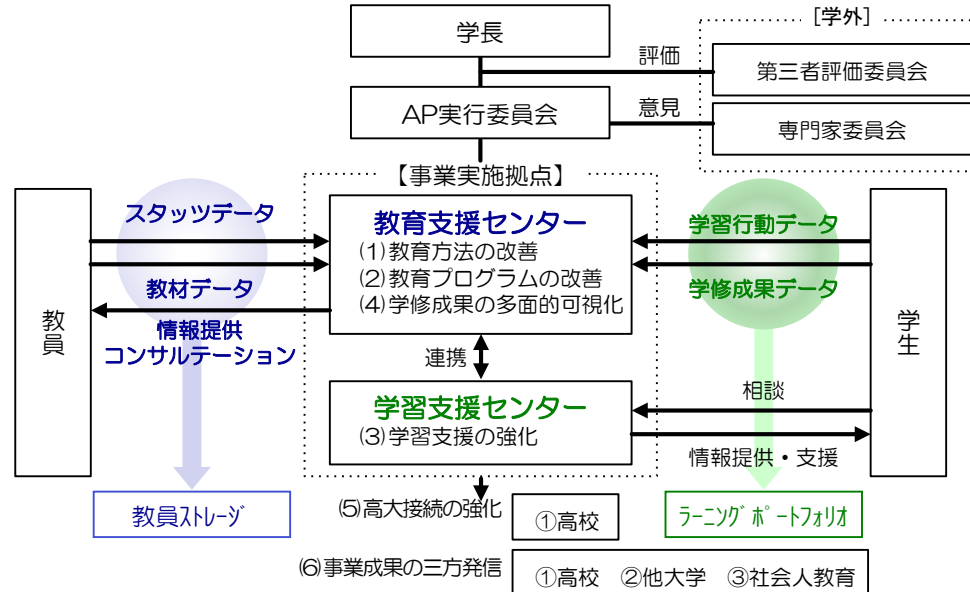
【2. 教育プログラムの改善】

これまでの各教員に委ねられていた授業設計等に、教育支援センターが介入し、大学全体として組織的に授業改善をはかる体制を整備する。



*授業内スタッツデータとは？

スタッツとは、統計を意味する statistics に由来する言葉(stats)で、スポーツにおける選手のプレーやチームの成績に関する統計数値のことをいう。本事業においては、授業における教員と学生のパフォーマンス(学生の質問数、教員と学生の対話数、事前課題に対するフィードバック時間など)の測定データを意味し、この分析により、教育力向上のための課題を発見し、改善を加速する。



【3. 学習支援の強化】

教育を深い学びにつなげるため、学習支援センターが、学生の授業外学習を支援し、ラーニングcommonsを中心に学習環境整備も推進する。

- ラーニングcommonsの整備
- 学習相談スタッフ
- 事前・事後学習の支援強化
- 総合的な学習指導
- 学習効率の向上

【4. 学修成果の多面的把握】

これまでGPAに偏っていた学修成果の把握を、知識・技能・態度の3側面からの把握に改め、学生に対する総合的な学習指導を可能にする。



事業の成果	※いずれも全学平均	26年度 (実績値)	28年度 (実績値)	31年度 (目標値)
	アクティブ・ラーニングを受講する学生の割合(%)		100.0	100.0
学生の授業外学習時間(時間/週)		8.5	17.8	16.5
スタッツデータ分析結果に基づく専任教員に対するコンサルテーション実施の割合(%)		0.0	83.5	79.7

大学改革の加速

本事業実施により、これまで取り組んできた教員個人の教育力と組織的教育力の「統合的強化」を加速し、本学「2020年の将来ビジョン」の達成を確実にする。

大学全体への影響

専任教員に対するスタッツデータに基づくコンサルテーションの実施等により教員個人および大学全体の教育力を高め、学習支援の強化等と合わせて学生の学びの質（ディープラーニング）向上を図る。